

## 特色ある取組（平成18年度優良公民館の事例紹介）

### 【施設名】

岡山県瀬戸内市邑久町公民館

### 【施設概要】

瀬戸内市邑久町公民館は、岡山県の東南部に位置するところにあります。瀬戸内市の地形は、東は瀬戸内海に面し、西から南西にはかけて岡山市、北は備前市に接しています。県下でも有数の穀倉地帯である千町平野が広がっており、瀬戸内海に面した海岸には良漁港も多く、牡蠣の養殖も盛んです。公民館の建物は、昭和58年5月竣工で、舞台ホールを備えた市内社会教育施設では一番大きいものとなっています。平成16年11月1日に旧牛窓町・邑久町・長船町の三町が合併して瀬戸内市が誕生し、新たな自治体となり、人づくり地域づくりの拠点としての生涯学習施設となっています。18年度、市民の皆さんの理解と協力のもと、今までの様々な社会教育活動やボランティア活動が認められ、全国優良公民館表彰を受賞することができました。ますます民意の生きる公民館を目指して、職員一同各種事業を進めていこうと思っています。

（施設のホームページアドレス）

<http://www.city.setouchi.lg.jp/>



### 【特色ある取り組み】

#### 「高校生ボランティアとの協働」

##### 人づくり地域づくりへのアプローチ

隣接する岡山県立邑久高等学校との話し合いで、学校運営方針として地域に開かれた学校としていくために、地域の人々との交流を求めておられることや、平成18年度から、生徒が学校外で主体的に取り組んだボランティア活動を単位として認定する学校設定科目「ボランティア」や「邑友タイム（年間19回：9講座）」を本格的に運用することを伺いました。こうした情報を得て、邑久町公民館が生涯学習ボランティアとしての地域への窓口的役割や、コーディネイト役を担うことを公民館運営審議会で検討することにしました。

##### 協働による人づくり地域づくり

これまで、県立高校と市立公民館が学校教育と社会教育の垣根を越えて連携協力し、活動したことはありませんでした。邑久高等学校の教育目標や理念は邑久町公民館のそれとは違いますが、人づくり地域づくりという目標を共有し、その目標達成のための手法に多少の違いがあっても互いの力を生かして相乗効果を上げていくようにしたいと考えています。

そのため、高校と公民館それぞれが持つ学校教育や社会教育の力と作用を生かしつつ、人づくり地域づくりにおける協働の仕組みをつくり、ボランティアとして活動する高校生や、市民がその制度を通して益を受けることができるよう、全市的な広がり育てて生きていきたいと考えています。

そして、このような取り組みを通して、地域にある高等学校を有用なものとし



て地域の人々に再認識していただくと同時に、高等学校の生徒一人ひとりが人のために役立つことの喜びを感じ取り、自分自身の将来に自信と希望をもつことができるようにしたいと考えています。

### **こうこうネットワーク事業**

主に、公民館が主催する講座や事業に参加した高校生ボランティアに対する単位制導入への支援や、事業（文化祭等）の相互乗り入れも時期を見て行うことにしています。

（名称の由来）

- ・高公（こうこう）高校と公民館が知恵と力を合わせ、協働社会の仕組みを作る。
- ・煌々（こうこう）連携や交流活動を通じて個人、学校、地域が煌めく。
- ・孝行（こうこう）連携や交流活動を通じて地域に孝行（貢献、還元）する。
- ・こうこう             こうこうだったね（学習）  こうこうしようね（意欲）

### **（事業内容）**

#### **（１）地域ボランティア養成事業**

- ・ホールマネジメント養成講座・糸あやつり人形劇養成講座・パソコンボランティア養成講座など

#### **（２）地域ボランティア実践体験事業**

- ・ホールマネジメントボランティア・放課後パソコンボランティア・読み聞かせボランティア・図書室ボランティア・喜之助フェスティバルボランティア・大正ロマン通り美化活動など



現在、邑久高校では地域に根ざし、地域に期待される教育活動として、「邑友タイム」の時間を開設し、地域理解や自分の進路希望の実現のための情報収集などに主体的に取り組めるようにしています。

公民館登録グループは、邑久町公民館には現在69団体あります。邑友タイムでは、それぞれのグループの代表が先生となり、9講座（IT学習、ステージマネジメント学習、図書室ボラ、着物着付け講座他）を開設し年間通じて、各19授業を受け持つようになっていきます。

この授業は、高校生の自らの興味・意欲に応じた講座に対して、公民館内と邑久高校内で金曜日の7時間目に高校生が受講する新しい取り組みを実施しています。

高校生は、現在、1学年69人（学年43%）が受講しています。その授業の中で地域の先生からさまざまな技術（パソコンスキル、舞台マネジメントスキル、図書読み聞かせスキルなど）を養い、週末や学校行事などには、その習ったものを地域の文化祭や高校での行事などのときに活かされるように地域と一帯となって青少年の「居場所」「活動場所」としての取り組みをしています。

生涯学習の観点からも、社会教育の特性を生かし、学校教育の中での「総合的な学習の時間」の授業としてのマッチングも考え、それぞれの取り組みが相乗効果となったり、補完的な役割を持つことにより生徒の学習意欲を高めることができるカリキュラムとなっています。

なお、地域教育に意欲的な高校生とのふれあい交流を目指した地域での教育力再生の一助になるよう組織づくりをたちあげるべく教諭と職員の間を密にしています。